

指導者研修会の実施について

これまで中学校では、すべての部に顧問の先生が割り振られていました。大会によっては、引率者を「その学校の校長及び教員とする」という規定があり、専門ではない、全く経験がない、運動が苦手だという運動部の先生たちがたくさんいました。そういった本人の意思に沿わない部活決定や部活に要する時間の膨大さなど働き方改革が叫ばれるようになり、部活動の地域移行に拍車をかけるようになりました。

地域スポーツ活動への移行により、専門の指導者が配置されていますので、どの競技の生徒たちも等しく専門的な技術指導が受けられます。部活動地域移行の大きなメリットの一つです。

長与スポーツクラブ（以下 NSC）では、指導者の資質向上のために次の研修を計画しています。

大阪体育大学「運動部活動指導認定プログラム」の受講

令和5年10月～令和6年2月（秋開講）にオンライン（一部は長与町役場で視聴可能）、ハイフレックスを利用して受講します。受講料は、今年度の秋開講に限り、NSCで半額近くを補助します。NSCと契約している指導者及び大学生ボランティアの方が受講できます。

プログラムは、大阪体育大学が平成28年度スポーツ庁受託事業（スポーツキャリアサポート）で開発した「運動部指導実践論」、また、令和元年度及び2年度スポーツ庁受託事業（運動部活動改革プラン）で開発した「グッドコーチ養成セミナー」をもとに開発されています。学校教育や生徒理解に基づく指導法の知識・技術とその実践力の習得、組織運営力の向上、その他が習得できます。

プログラム修了者には、大学発行の修了証、学校教育法に基づく履修証明書が交付されます。また、公益財団法人日本スポーツ協会の公認コーチングアシスタント資格の取得が可能になります。

余談ですが、サッカーで有名な故小嶺監督（元国見高校サッカー部監督）は、全国に名を馳せたのちもS級指導者の資格を取得しました。長期にわたる研修があり、小嶺先生は20キロくらいやせるほど努力されたようです。「流れる水は濁らず」一流においても常に新しいものを追い求める姿勢はさすがです。

子どもは地域を活性化させる宝もの



NSCでは、子どもたちのスポーツ活動を支えるため、地元企業や個人のサポートを募集しています。NSCは受益者（保護者）負担と県や町の支援を受けて運営されていますが、備品・消耗品の購入や指導者謝金、NSC運営費等に必要な資金・財源は潤沢とはいえないのが現状です。

「地域の子どもは地域で育てる」これまで学校で担ってきた部活動を地域で支え、地域に貢献できる宝を育てるためのサポートを期待しています。

部活指導の思い出 No.2

10年ほど前、部活動の教え子と会ったときに、思い出話のひとつに次のような話が出ました。「たまに先生がお子さんを部活に連れてくるのがあって、厳しく指導されている最中にお子さんが寄ってきて、先生にお菓子をせがむんです。すると先生は、お菓子をやりこせと荷物置き場に行ってお子さんにお菓子を渡すんです。恐い先生が優しいお父さんに急変する姿に、部員たちは、先生にばれないようにくすくすと笑っていたんです。」

私が土日いつも部活で家にいないので、妻は、当時を振り返り「土日はずっと母子家庭だったもんね」と言います。子どもも小学校低学年までは、父親の仕事は学校の先生でなく、サッカーのお仕事と思い込んでいたらしいです。部活動地域移行で、先生方も家庭や自分の時間ができるといいですね。

文責：山川（部活動地域移行コーディネーター）